

300人の死亡確認

3000人依然生き埋めか

石油ライン被害情報も

【ユジンサハリンスク28日共同】ロシア極東のサハリン州北部を襲った大地震で、クレヒッチ同州副知事は十九日、地元ラジオを通じ、被災地ネフチェゴルスクでこれまでに三百人の死を公式に確認、ほぼ同数の住民を治療のため病院に収容したと発表した。このほか住民約三千人が依然、がれきの下に生き埋めになっっているとみられる。ロシア政府の対策委員会議長、ソスコバツ第一副首相は、犠牲者が三千人以上の可能性にも触れ、ロシアでは「史上最悪」の震災になる恐れもあるとしている。また被害は同州北部の産業基地も直撃、極東の経済動脈である石油パイプラインにまで及んでいるとの情報もあり、環境汚染などの懸念も出ている。(3面に関連記事)

口史上最悪の恐れ

政府が二十九日までに事、事態の掌握と救援作業、犠牲者がさらに増える恐れがある。



地震被災者救援に向かうAMDAMメンバー。岡山市檜津。AMDAM本部

ソスコバツ第一副首相は現地時間十九日午前、州

山 AMDA 救援チーム出発

サハリンへ医師ら4人

ロシア・サハリン州北部で起きた大地震で、医療ボランティア団体のアジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市檜津）は救援医療チーム派遣を決め、十九日、岡山港から第一陣が出発した。

派遣は、アフリカのルワンダ難民救援活動に当たった鎌田裕十朗医師（キ）茨城県取手市）をリーダーとし、AMDAM事務局長の三宅和久医師（ミ）、岡山市万成西町（シ）の三人医師と連絡調整役の計四人、JCS（日本赤十字社）医師ら岡山からの二人が、抗生物質などの医薬品を積み、チャーターした軽飛行機で正午

口大統領に見舞い電報

村山首相

村山首相は二十九日午

部ユジンサハリンスクに到着、救援・復旧の陣頭指揮を執る。これに先立ち、シオイ非常事態が現地入りし、対策に当たっている。ネフチェゴルスクは、被災地では土地からの捜索、救援活動が二十九日、本格的に始まり、州都から医薬品や食料などを大量に輸送、さらに生存者を医療施設に収容する緊急輸送作戦も始まった。しかし被災地がサハリン最北の遠隔地で、通信情報も悪く、濃霧に阻まれて活動は難航し

ている。インタファクス通信によると、オホーツク海沿岸のオハネフチェゴルスク間九十キロのバイパスの四十五カ所に地震の影響で倒壊が入ったほか、石油タンクから石油が流出している。同通信は、同州のサハリン海底石油ガス社の話として伝えた。クレヒッチ副知事は「そうした兆候はない」と汚染被害を否定している。

しかし、同社は被災地帯の油井すべてが破壊されたとしており、日本などの国際協力による石油、天然ガス開発の対象地域である

前、サハリン地震に当たってロシアのエリツィン大統領あてに見舞いの電報を二十八日に送ったことを明らかにした。

オホーツク海大陸棚の掘削地や鉱脈自体にも被害が及んでいる恐れもある。サハリン州は極東地域の九〇％以上を占める産油地帯で、一九九三年には百五十六万バレルを生産した。

生き埋めの650人は生存

ネフチェゴルスク

【モスクワ28日共同】タス通信によると、サハリン地震で最大の被災地となったネフチェゴルスクで、二十九日午前までに、生き埋めとなった住民のうち、少なくとも六百五十八人は生存していることが分かった。州都ユジンサハリンスクでこの日開かれた緊急対策委員会の席上明らかにされた。

目撃証言によれば、このほか数百人ががれきの下に生き残っているという。物資の援助や救援隊派遣準備

政府は二十九日午前、ロシア極東のサハリン地震に

ついて、医薬品、衣料品、毛布などの救援物資や消防、医療チームなどの救援隊を送る準備に入った。村山首相は同日午前、記者団の質問に「事態を把握していないが、物資の援助や国際緊急援助隊の用意もしてある」と述べた。また五千風官房長官も「三千人が行方不明になっているようだ。既に二十八日にロシア側（日本として）何ができるか申し入れて、回答を待って物財、人的支援が必要になる」と述べ、積極的に救援に乗り出す意向を示した。

これに関連して政府筋は「現地はまだ氷点下に近い気温であり、もともと医師が少ない地域なので医療面の救援が必要だと述べた。